

## 第6回（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会 会議録

1. 日 時 令和5年10月26日（木）14:00～16:20
2. 場 所 印西市文化ホール 大会議室
3. 出席委員 ◎高橋克委員、○榎美香委員、西山純子委員、三石宏委員、早川博史委員  
伊藤哲之委員、西田裕子委員、岸山誠委員、本田正幸委員  
（◎委員長、○副委員長）
4. 事務局 印西市教育委員会生涯学習課 飯島課長、菅谷係長、根本主任学芸員、  
大関学芸員
5. 傍聴人 4名
6. 会議内容
  - 1 開会
  - 2 会長挨拶
  - 3 会議録署名委員の指名
  - 4 議事
    - （1）修正箇所の確認
    - （2）施設整備計画（案）の検討
    - （3）展示計画（案）の検討
    - （4）デジタル環境整備計画（案）の検討
    - （5）管理運営計画（案）の検討
    - （6）事業推進計画（案）の検討
  - 5 その他
  - 6 閉会

### 7. 会議録

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 会議録署名委員の指名

委員長 : 西田委員を指名する。

#### 4 議事

##### （1）修正箇所の確認、（2）施設整備計画（案）の検討

事務局 : ※資料1の修正箇所とP.26～31を説明

委員 : P.26 施設整備計画の基本方針の1つめに駐車場を加えていただいたが、まちかど博物館には、大型バスの駐車スペースに関する問合せがある。文言のなかに大型バスの駐車スペースについても明記できないか。

事務局 : 検討させていただく。

委員 : P.30の利用者サービスに飲食機能とあるが、地方の施設では飲食施設の運営が厳しいと聞く。運営可能性も含めて検討するとよい。

事務局 : 本施設の付加価値を生む機能として飲食施設を盛り込んでいる。整備に関しては実態を踏まえて検討していきたい。

委員 : 飲食施設については、文化財 IPM の観点から展示機能とは離して整備するとよい。

- 事務局 : そうした観点も踏まえて検討したい。
- 委員 : P.30 に屋外展示とある。岩井家住宅主屋（旧武蔵屋店舗）が国登録文化財となっているが、所有者にとっては管理が大変になっていると聞く。そうした建物を移築し、飲食施設などに活用してはどうか。屋外展示のなかで歴史的な建物の保存を入れるとよい。
- 委員 : 岩井家住宅主屋は1階がレストランで、2階部分で講座等を行っていると思う。そのような活用ができるとよい。
- 委員 : 古民家の移築には何千万とかかるので、柔軟に対応できるよう基金を設置してはどうか。
- 事務局 : 条件などを整理し、検討していきたい。
- 委員 : P.27 の立地について、個人的には木下貝層付近の整備を望むが、災害リスクが低い場所として、たとえばデキシー跡地などは土盛りすれば災害リスク低減になるのではと思う。事務局としてはどのように考えているのか。「水と台地が育む」というテーマを活かすのであれば水辺での整備も考えられる。とすると「災害リスクが低い場所」という考え方をもう少し広げるような文言としてはどうか。
- 委員 : 我々の一存で場所を決めることはできない。場所が決まった際に、どのような災害対策を取るか検討していくことになると思う。
- 事務局 : 場所については慎重に検討していきたい。
- 委員 : 常設展示は基本的には無料だと思うが、その他の機能について有料にすることが可能なか。年間通して訴求力のある企画展示を行う必要もあると思う。その際は、有料とすることは可能か。
- 事務局 : 入館料については今後、検討する。近年では常設展示も有料の施設もある。他館の状況もふまえながら入館料について検討していきたい。
- 委員 : 博物館法では基本的には無料とされているが、特別な理由があれば有料にできる。千葉県の県立施設が有料にしたこともあり、自治体でも有料の施設がある。企画展については有料にしないと運営できないのも事実である。いずれにしても、市民が納得する額に設定することが重要である。
- 委員 : P.28 収蔵資料のなかに行政文書は含まれるのか。
- 事務局 : 文言としては歴史的公文書と記載しているものの中に含めている。
- 委員 : P.26 に「ランドマーク性を備えた」とあるが、建築デザインによっては経年による雨漏りなどのトラブルも聞く。デザイン重視では修繕費がかかるとか、管理費がかかるなどといったことが無いようにしてほしい。  
立地については、魅力的な場所であることも大事ではあるが、その土地の湿気などは機械で除去することもある程度は可能だが、資料保存の観点もふまえて検討したほうがよい。また、飲食施設については国宝・重要文化財の展示もふまえて検討するとよい。
- 委員 : 諸室の面積については、前回の委員会での委員意見を踏まえて内部検討してほしい。

### (3) 展示計画(案)の検討

- 事務局 : ※資料1のP.33～39を説明
- 委員 : P.37の冒頭で、「今後検討します」とあるが、違う表現はないか。
- 事務局 : 検討する。
- 委員 : P.36「展示イメージ」とあるが、「導入展示イメージ」としたほうがよい。
- 委員 : P.33基本方針2の「知的好奇心」と「誇りと愛着」がつながりにくい。知的好奇心というなら基本方針3のほうが馴染むのではないか。「主体的に触れ

ること」が必ずしも「誇りや愛着」につながらないのではないか。「印西市についての探究心を育み、誇りや愛着を」などとしてはどうか。

- 委員 : 基本方針3について、「訪れるたびに、異なる資料が展示されている」とあるが、現場の負担が大きくなることが懸念される。はっきり言い切ってしまうと厳しいので、表現を変えた方がよい。
- 委員 : 毎回、異なるものが見られるとしたら、一番可能性として高いのは体験シアターだと思う。ただ、こうした機械系は、故障中という表示をよく見かける。学芸員が更新しやすい仕組みにしておくことが必要である。体験シアターでは伝統芸能だけでなく食も含めて地域の文化を伝搬できるものにしていくとよい。
- 委員 : 10年、20年たったときのことを考えてつくることが重要。P.34に模型とプロジェクトマップを組み合わせたものとあるが、模型もあつというまに古い印象になってしまうので、更新性のあるもので表現しておくとうい。P.36に、視覚や聴覚に障害のある方への対応が求められる。たとえば、ランドマークになるような建物とするなら、建物の形を触れるような物があるとよいと思う。
- P.37のテーマ展示は、実際にここで働く方が関わられる内容を望みたい。なるべく早い段階で、このミュージアムで働く方が検討に携われるようにしてほしい。
- 委員 : 我々も人を呼び込みたいという思いで活動してきた。ひたちなか海浜公園のコキアやネモフィラのように、博物館の屋外では花で人を呼んではどうか。展示計画のなかで、展示の一つとして植物を盛り込んではどうか。
- 事務局 : 博物館の付加価値として人を呼ぶような機能も検討していきたい。
- 委員 : P.39の特別展示・企画展示とあるが、企画展の内容というのは、どのような段取りで決まるものなのか。企画は誰がたて、だれが承認し、実現されていくのか。選定委員会のようなものがあるのか。
- 委員 : 当館では、各学芸員が収蔵資料や社会情勢などを踏まえながら企画をたて、学芸員のなかで検討し、開催している。オリンピックや市政70周年、新収蔵資料などのほか、来館者アンケートなども踏まえて検討している。
- 委員 : 検討から実施まで時間がかかると思うが、企画展の検討テーマを事前に告知することはできないか。
- 委員 : 当館では、開催が決定してから情報発信している。大規模施設であれば、年間スケジュールを広報誌等で発信している。
- 委員 : 埼玉県内の市のやり方が非常に良く、市史編さんの中で検討した資料を文化財指定し、博物館で展示するようにしている。縦割りの施設が多いなかで、毎年の成果を展示として発信しているというシステムは非常によいと思う。取り入れていただけるとよい。
- 委員 : 基本的には施設の方針、印西市であれば印西市の資料をテーマとするなど、博物館のコンセプトを軸に展開している。何年もたつと企画もそこを突いてくるが、新しい学芸員の若い目でみて、新たに企画を検討していく。学芸員が検討し、館長が決定し、開催する。同じようなテーマが続かないように検討している。我々が検討している基本方針をもとに企画を検討していくことになる。市史編さんの成果も盛り込んでいけるとよい。
- 委員 : 常設展示のなかで1、2ケースは短期間で入れ替えていくなど、同じ資料でも資料の見方を学芸員によって変えていく、ということも取り組んでいる。テーマ展示については時代順を想定しているのか。展示の途中からも見られるような構成でもよいのでは、また、アンケートで得た市民の声も盛り込んではどうか。
- 委員 : P.37テーマ展示の「ミライ」をカタカナにした理由は？
- 委員 : P.37テーマ構成の内容に齟齬があるのではないか。

事務局 : 記載内容を精査する。

#### (4) デジタル環境整備計画(案)の検討

事務局 : ※資料1のP.40~45を説明

委員 : P.47 国会図書館のデジタルコレクションをよく利用している。多くの図書館では歴史資料の貸出までは行っていない。  
調査研究成果の全文公開をしてほしい。

事務局 : この先、博物館施設の整備にあたり、博物館法の改正に沿ったかたちでデジタルアーカイブの整備を進めたいと考えている。  
調査研究成果の公開については、要約も含めてできる限り多くの情報を公開できるように取り組んで行きたいと考えている。

委員 : 既存の調査報告書のデジタル化は、人手があれば取り組むことが可能である。掲載写真等の著作者に確認し、それに応じた加工をして公開することも可能ではある。人員を配置していただきたいと思う。

委員 : オープンにできない情報は公開しないということが前提である。そうした意味ではデータベースを2つ整備しておくようなイメージである。非公開の情報を含むデータはインターネットに接続しないなどの対応も必要である。

委員 : 印刷物のPDF化については、印刷会社に所有権がある場合もあるので、確認をしながら取り組んでほしい。  
データ保管についても、バックアップを数通り取っておくなど検討しておく必要がある。データ保管の方式もよく検討し、特殊な機械がないと見ることができなくなることをしないようにする必要がある。

#### (5) 管理運営計画(案)の検討

事務局 : ※資料1のP.46~48を説明

委員 : 体制図について「学芸員」のみ「〇〇担当」という表現でないのはなぜか。また、市史編さんまで館長が担うとなると負担が大きいのではないかと。

委員 : 広報・渉外担当が独立しているのは非常に素晴らしいと思った。事業が削減された場合でも、是非、削減しないでほしい。また、修復担当を設けるとよい。

委員 : 私は逆に、学芸員として採用された人材が広報・渉外を担わないとなると、偏ってしまうのではないかとと思う。部門を独立しておくことは重要であるが、年度ごとに担当者を替えるなどして、互いの業務への理解を深める機会をもつとよい。また、資料管理担当を置くとよい。

委員 : 体制図は業務を書き出したものだと理解しており、現実的には兼務となるのではと思う。資料管理の担当は重要だと思う。また、すべて正規職員というのにも限りがあると思うので、雇用についても今後検討する必要がある。また、職員は予算を取ってくる苦勞を知ることも重要である。  
開館前に準備室を設けることが重要だと思う。  
県内の事例でもあるが、本庁の文化財部門と博物館が一体化している施設もある。体制についてはしっかりと検討しておくことが必要である。

委員 : 博物館は博物館単体であることも重要である。ある市は博物館ができたことで、文化財担当課が博物館に移された。それにより、業務がやりやすくなった点もあると聞く。文化財担当課は本庁にあることも重要なので、そのあたりも踏まえて検討をするとよい。

#### (6) 事業推進計画(案)の検討

事務局 : ※資料1のP.49を説明

委員 : PFIなども検討されていると思うが、PFIで整備しても、整備後に追加の費用が発生することもあるようなので、他市事例もふまえてよく検討したほう

がよい。

運営についても、県内の事例で指定管理を導入しているが、博物館運営にはなかなか馴染まないのではないかと思う。よく検討されたほうがよい。

委員 : 指定管理者を導入している博物館は非常に少ないと思う。整備から民間導入している例は少ないのではないか。

委員 : 事業推進を検討するためには事業費もあわせて検討することが重要である。

委員 : ある博物館の例では、指定管理業者と市民団体とのあいだで対立が起きているようなので、個人的には直営が望ましいと思う。

委員 : 茨城県にあるやきいもファクトリーミュージアムを視察したが、地域の企業の協賛を得ている。印西市でも大手企業の進出があるので、企業協賛を得られるような仕組みを盛り込んでことを検討していただきたい。

委員 : 施設整備計画の基本方針に「ランドマーク性」とあるが、地域の景観に馴染むことも重要である。新施設は「ランドマーク性」をどなたが、どのように検討していくのか。

事務局 : 今後の設計段階で固められていくものと考えている。

## 5 その他

事務局 : 今後は12～1月にかけてパブリックコメントを実施し、2月に第7回の委員会開催を予定している。

次回の日程は改めて調整させていただく。

### 【会議資料】

- ・資料1 (仮称) 印西市歴史文化施設基本計画(案)
- ・参考資料 第5回(仮称) 印西市歴史文化施設基本計画策定委員会 会議録

令和5年度第6回(仮称) 印西市歴史文化施設基本計画策定委員会会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和5年12月5日

(仮称) 印西市歴史文化施設基本計画策定委員会

会議録署名委員 西田 裕子